

# 東京都立染井霊園MAP

～霊園は故人が眠る慰霊の場所です。節度を持った行動をお願いします。～

「あの人」との対話を——。

このマップは、染井霊園と、隣接する寺院に眠る人々の運搬を巡って「点」が「線」となるように墓石を紹介しています。ご紹介している文化人に関連する人物の墓石は数字で表しました。墓石をたどると、つながりあう人たちに交わされる会話まで聞こえてくる気がします。桜に彩られる霊園で、心に思う泉下の「あの人」との対話を楽しんでみませんか。

清らかな意志の人  
**高村光太郎**  
たかむら こうたろう (1883～1956)

**高村智恵子**  
たかむら ちえこ (1886～1938)

**高村光雲**  
たかむら こううん (1852～1934)

1種口6号1側

光太郎は妻・智恵子の死後、詩集「智恵子抄」で国民的人気を博す。戦後、戦争責任を自ら問ひ、岩手県の大森にてこもる。父・光雲は、明治の木彫の第一人者。岡倉天心に招かれて東京美術学校教授となる。上野公園(西郷隆盛像)の作者。



ながいけ

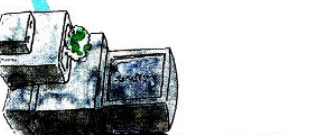
かつて、東郷朝菜園に浴びて一段低地となっているところに長池という池があり、谷川(藍染川)が流れ出て、箱崎橋をくぐり、台東区中を流れ、不忍池にそそいでいた。

ほんまやうじ  
**本妙寺**

川端康成の「名人」に描かれた二十一年世英成(しゅうせい)・1874～1940)での租界本区坊々々の墓石。



ご存知 桜吹雪の金さん  
**遠山金四郎景元**  
とよやま きんしろうかげもと (1793～1855)  
江戸時代の眞本。江戸町奉行を勤めた。小説「トラマ」の「遠山の金さん」などでその名を知られる。



「生に苦悩した理知派  
**芥川龍之介**  
あくたがわ りゅうすけ (1892～1927)  
東京帝国大学(現東京大学)在学中、「新思潮」に発表した「黒川が夏目漱石に激賞され文壇に登場する。谷崎とは『小説の面白さ』について論争した。」

美意識の深淵を抱く  
**谷崎潤一郎**  
たにざき じゆんいちろう (1886～1965)  
東京帝国大学(現東京大学)在学中、「新思潮」に発表した「刺青(いせい)」が永井荷風に激賞され文壇に登場する。官能的・耽美的の作風で知られる。



蘭学者で画家の司馬江漢(しんぱ)  
こうかん・1747～1818)を眠る。

怒眼寺

山田文雄

山田真妙

蓮華寺

蓮華寺

蓮華寺

蓮華寺

蓮華寺

蓮華寺

蓮華寺

蓮華寺

蓮華寺

重商主義経済を推進  
**田沼意次** たぬま おきつぐ (1719～1788)  
第十代將軍徳川家治に寵愛され、家禄六百石から、五万七千石の相良(さか)ら、藩大名になり、「田沼時代」といわれる全盛期を成した。



気骨ある明治新聞人  
**陸羯南** がかつなん (1857～1907)  
1889年、新聞「日本」を創刊。民権文化の再発見、再生を論じた。正岡子規を社員として短歌、俳句の革新運動に尽力。この俳句革新運動が雑誌「ホトギス」を生んだ。週刊誌の草分け「開田参園(まるまるちんじん)」を発刊した。野村文夫(のむらふみお)も。



関谷の地の跡・染井を代表する江戶時代の建木屋、伊藤伊兵衛(いとういへい)家の自宅跡。(四代目改武の墓は駒込六丁目の西野寺にある。)

日本美術の先導者  
**岡倉天心** おかから てんしん (1863～1913) 1種14号14側  
東京美術学校(現東京藝術大学)設立の起動力となり、29歳で第二任校長。辞職後、日本美術にポスト美術館の中国、日本にポスト美術館の中国、日本美術部長、東京美術学校初代校長の6尾新新(はまおあらた)・天心と演劇改良運動を共にした元・早稲田大学総長の1高田早苗(たかたさなえ)もここに。



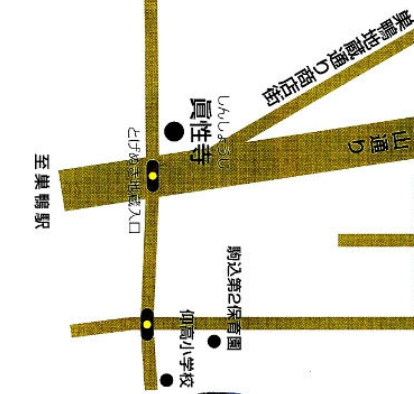
「主観」の尊重  
**水原秋桜子** みずはら しゅうおうし (1892～1981)  
1種13号1側  
本名・水原豊。高兵衛子に師事し、俳句雑誌「ホトギス」に参加。「ホトギス」の四Sと称されたが、やがて弟子の「空樹生」に列して主観を唱えて対立し、俳句雑誌「馬酔木(あしひくま)」を主宰して「ホトギス」で活躍した。4版本四方本(さかむちとしまつた)がここに。



ふたばでいしむい(1864～1909) 1種15号37側  
本名、長谷川辰之助。筆名は、文学に志すことを嫌った父から「くたばって死ぬえ」と怒鳴られたこと由来するといふ。小説「浮城(うきぎく)」で写真文学、言文一致の文体を先導した。同じく言文一致の小説家、山田真妙(やまだまひま)もここに。



情熱と理知の教育家  
**巖本善治** いわもとよしはる (1863～1942) 1種14号13側  
巖本は、明治女学校の第二任校長。相馬黒光、羽仁もと子、野上弥生子らが学んだ。野井庄五郎(つばいしよごろう)は同校講師。「J」公文を本邦初刊した若松綾子は、善治の妻。孫の「イオリ」ニスト巖本眞理(いわもとまのり)もここに。





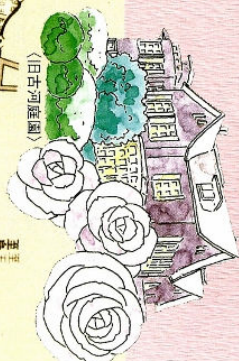
### 美鴨御菜園跡 すかもちやくらんあと

豊島の西にある東京都中央卸売市場豊島市場は、かつて「美鴨御菜園」でした。寛政10年(1798)ごろに菜用植物の栽培地となり、綿羊を飼い、ラシヤ織りを試作して、「綿羊屋敷」とも呼ばれました。



### 旧中山道

本郷道分て岩槻街道と分かれ、美鴨駅前を通る江戸五街道の一つです。江戸六地蔵の眞性寺と、げめき地蔵の高岩寺門前を通ります。はじめは「中山道」と書きましたが、正徳6年(1716)から「中山道」に統一されました。



左の地図は昭和7年10月1日豊島区発足直後のもの。右の現在の地図と見くらべてください。

発行：豊島区文化観光課  
東京都豊島区東池袋1-18-1  
TEL:03-3981-1316 FAX:03-3981-3069  
E-mail:A0014503@city.toshima.lg.jp  
執筆：伊藤榮洪(豊島区図書館専門研究員、元区史編纂委員)  
イラスト：天白由美子(デザイナー室あとりえ)  
監園問い合わせ：染井霊園管理所 TEL:03-3918-3502  
2010年4月発行(第2版)  
豊島区観光案内ホームページ  
http://www.city.toshima.lg.jp/bunka\_kankou/

### 駒込・染井の地

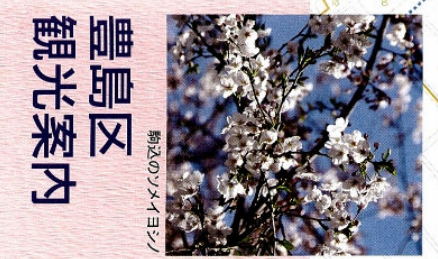
江戸時代の切絵図で見ると「比叡染井村、植木屋多シ」と書き込まれています。名花「ソメイヨシノ」を生み出した土地であり、ツツジや菊つくりを広めた園芸家たちの集まる場所でした。駒込駅前を南北に通る本郷通りは、日光街道に続き、将軍の日光参詣の行列の通る街道でした。現在、通り沿いには六義園(けいぎえん)パワと洋風建築が美しい旧古河庭園(きよかわのりてん)が残り、お花見で有名な飛鳥山(あすかやま)が一つく緑豊かな地域です。



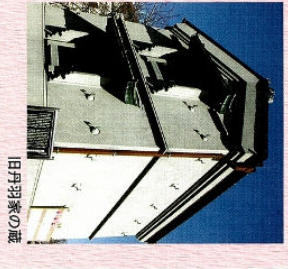
### 染井霊園

播州林田藩(兵庫県)建部(たけべ)家の抱屋敷跡地で広さは約6万8千㎡です。僧侶の山田文應(やまだぶんおう)の努力で共同埋葬墓地として開かれ、明治7年(1874)9月1日、東京府が引き継いで開設しました。幕末から明治にかけて活躍した大名や活動家、学者らが多く眠るところです。現在の地番は、駒込五丁目5番。駒込駅、美鴨駅いずれも近くです。

# 染井霊園 MAP



駒込のソメイヨシノ



旧丹羽家の邸



# 東京都立 雑司ヶ谷霊園MAP

～霊園は故人が眠る憩いの場所です。節度を持った行動をお願いします～

享樂に生きた反骨。  
永井荷風 なつかふらう (1879～1959)  
1-1号7脚3番

霊を作るなら「浄閑寺」と言っていた荷風の墓が父久一郎(末原かげん)と並んでいる。時代に背を向けて江戸趣味を逞い、上田敏の言う「真の享樂主義者」としての生を貫いた。「柳橋新話(らうきょうしんわ)」の●成島柳北を深く愛した。

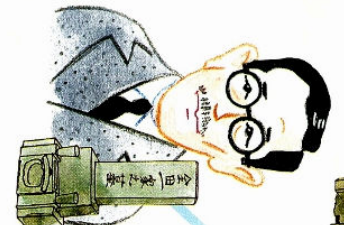


日本ひんきのコスモポリタン。  
小泉八雲 こいずみやくも (1850～1904)  
1-1号8脚35番

父はアメリカ人、母はギリシヤ人。アメリカで新聞記者などをしたあと来朝して帰化。東大講師時代、哲学の講師(●)「ハーメルと回廊」であった。講師辞任の時、小説家の●武林無想庵(たけはやしむすおん)らが残運動をした。

開明派の「最後の幕臣」。  
小栗忠順 おぐりただだま (上野介) (1827～1866) 1-4号85脚35番

「明治の父」と司馬遼太郎が言う、幕末の開明派の幕臣。「日米修好通商条約」批准で幕末、その随行艦「威風丸」には勝海舟、福沢諭吉ら。中流(ジョウ)万次郎が通訳をした。●岩瀬忠震(いわせただなり)・肥後守も開明派の幕臣。



心やさしい言語学者。  
金田一京助 きんたいちきよすけ (1882～1971) 1-22号5脚24番

アイヌ語またアイヌの叙事詩「ユーカラ」の発掘や言語研究で業績を残す。若い日に新詩社の「明星」に加わり短歌に親しい。中学の後輩石川啄木を短歌に誘い、物心両面で支えた。この「明星」には一時、歌人●窪田空穂も加わっている。

誠実に愛し、尽くした。  
泉鏡花 いずみきょうか (1873～1939) 1-1号13脚33番

10歳で失った母の鈴を生涯追慕し、師の尾崎紅葉を神格化するほどに仕えた。芸者(本名すず)との結婚を紅葉に反対されたいきさつが小説「縁糸園(おんなけいす)」に。新派の舞台で多くの人の目を誘った。名優●喜多村謙二郎もここに。



理想を教育・出版で。  
羽にもと子 はにもとこ (1873～1957) 1-1号10脚42番

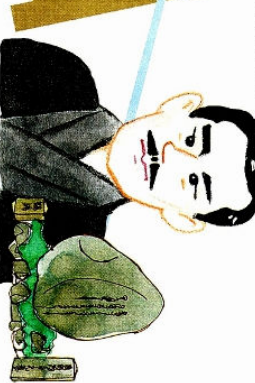
キリスト教徒として、西池袋に新しい教育を目指して自由学園を創立。当時の校舎、明日館(みょうにちかん)はフランス・クロボト・ライトの設計で国の重要文化財。雑誌「婦人之友」を創刊。彼女の学んだ「明治女学校」には●大塚楠緒子(おおくわなつこ)も通い、女医第一号の●荻野吟子はその学校の校医。



「あの人」との対話を――  
霊園を訪ねて、心に思う泉下の「あの人」との対話を楽しんでみませんか。このマップは人の運搬を巡って「点」が「線」となるように、墓石の位置を数字で表しました。都電「雑司ヶ谷」停留所近くの入り口から歩く順になっています。数字をたどると、つながり合う人たちに交わされる会話を耳に聞こえてくる気がします。その会話を楽しんでください。

あふれる詩の才能。  
サトハチロー (1903～1973) 1-5号25脚25番

戦前の「二人は若い」、戦後の「パンコの唄」の流行歌で圧倒的な人気を生んだ詩人。若い日の無賴を心配した小説家の父紅緑は、現在の豊島区上池袋三丁目に世帯を持たせた。ラジオドラマ「君の名は」の脚本家菊田一夫も同居。



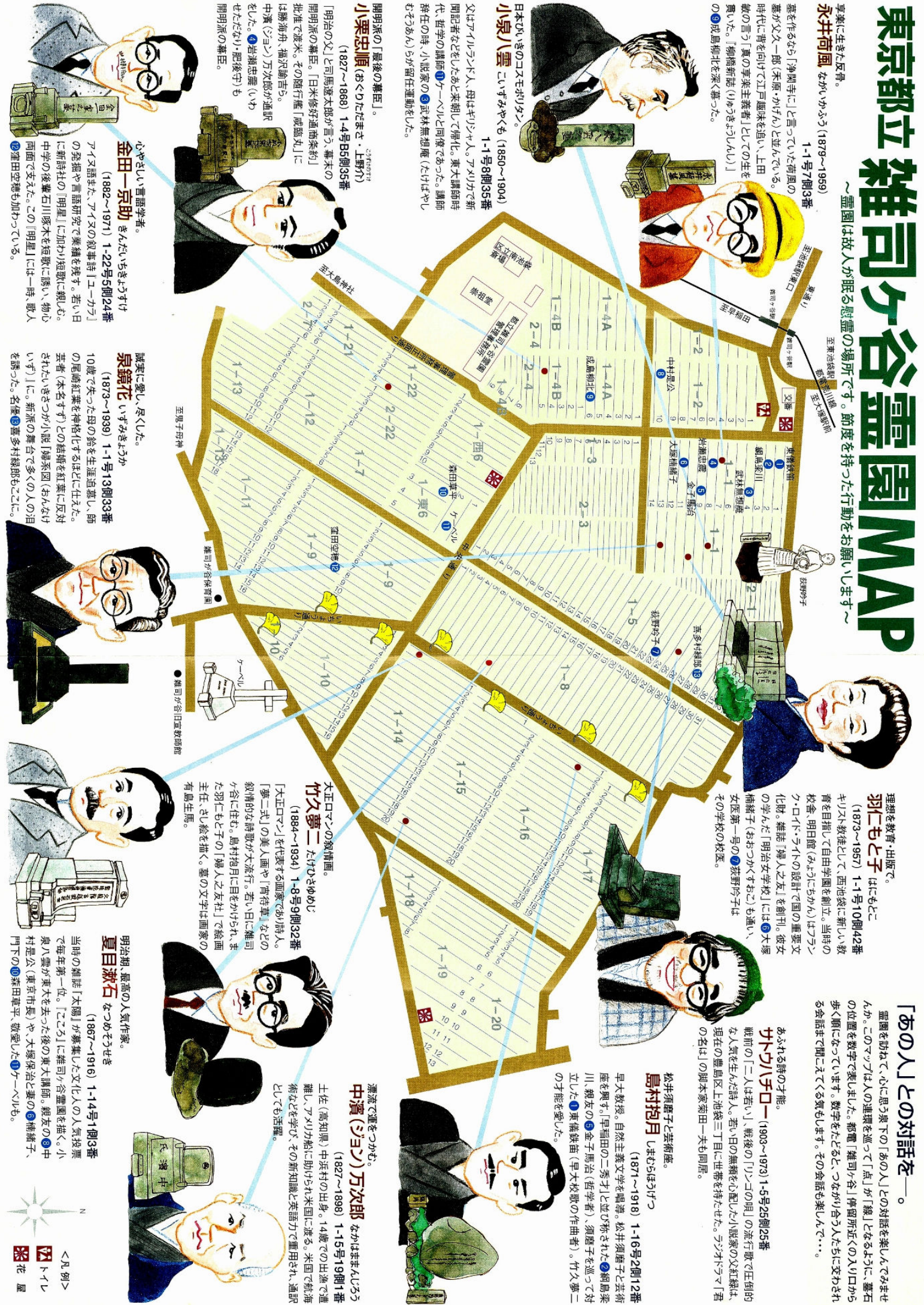
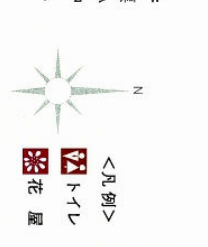
漂流で運をつかむ。  
中濱(ジョウ)万次郎 なかはまじろう (1827～1896) 1-15号19脚11番

士佐(高知県)中浜村の出身。14歳での出漁で進歩し、アメリカ船に助けられ米国に渡る。米国で航海術などを学び、その新知識と英語力で重用され、通訳としても活躍。



明治期 最高の人気作家。  
夏目漱石 なつめそうせき (1867～1916) 1-14号1脚3番

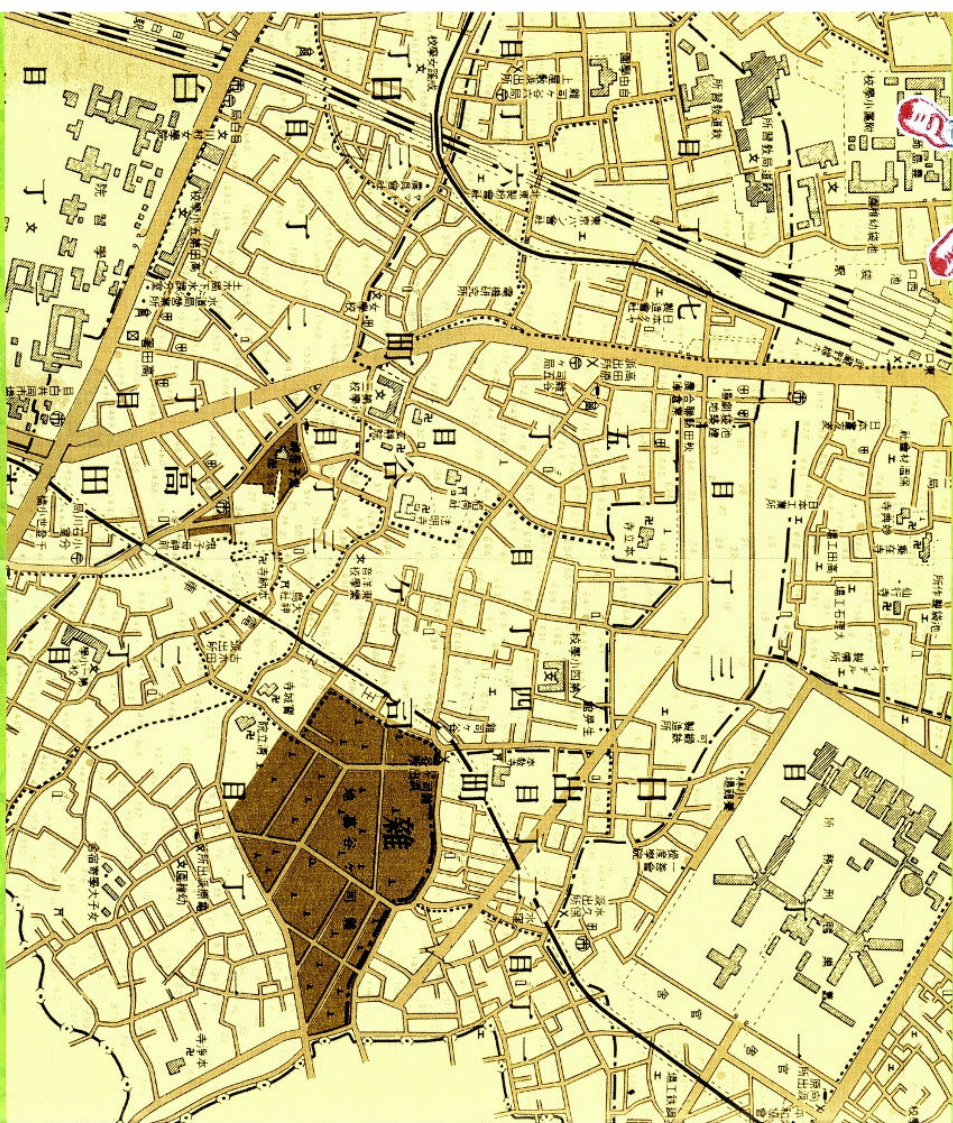
当時の雑誌「文藝」が募集した文化人の人気投票で毎年第一位。「こころ」に雑司ヶ谷霊園を描く。小泉八雲が東大を去った後の東大講師。親友の●中村屋公(東京市長)や、大塚保治と妻の●楠緒子、門下の●森田草平、敬愛した●ケーパーらも。







左の地図は昭和7年10月1日  
豊島区築足直後のもの。右の現在の  
地図と見くらべてください。



### 昔の雑司が谷が、 文人に愛された緑の土地 都市化で川も暗渠に

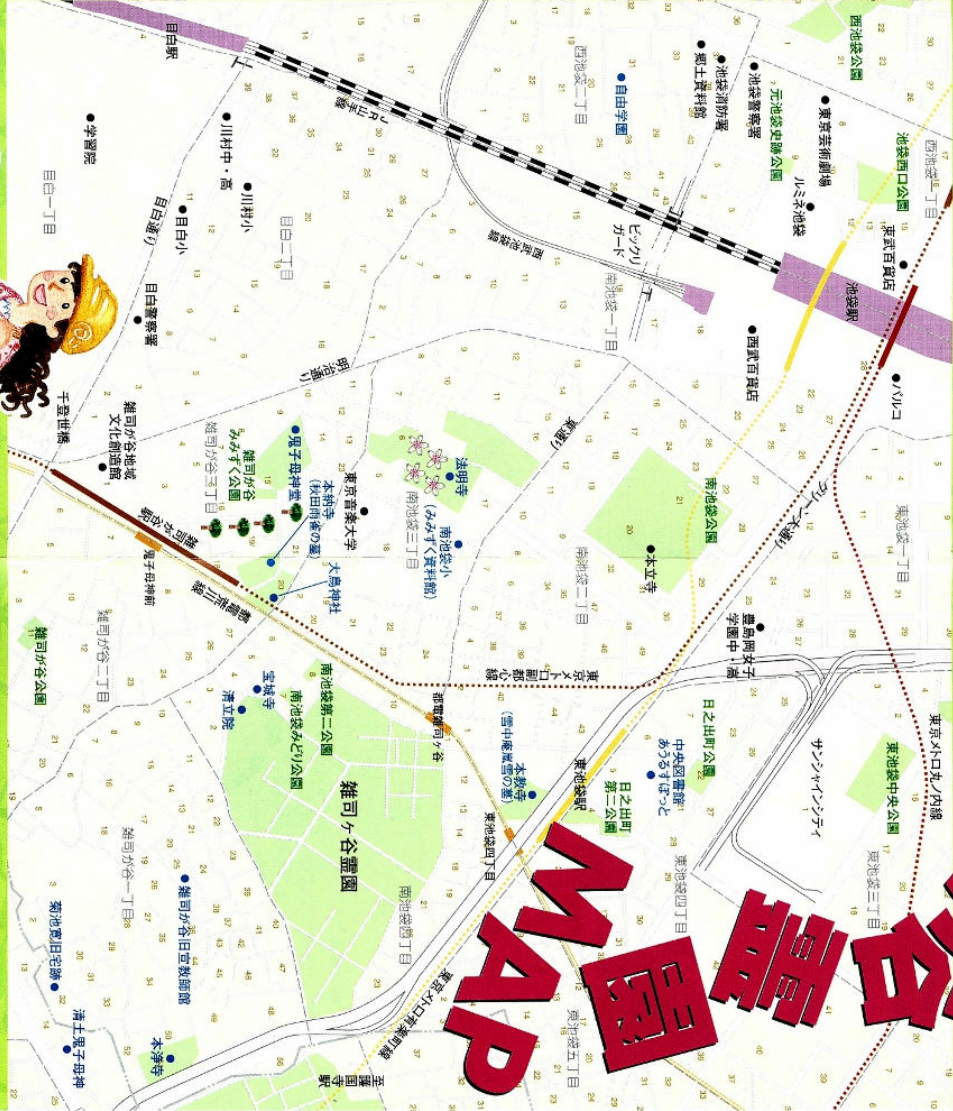
75年前の左の地図(豊島区築足直後)と地下鉄「雑司が谷駅」のできた現在の右の地図を比べると、大きな変化が見受けられます。池袋東口にあり、詩人三木露風(みきろふう)が住んでいた根津山は削り取られ、護国寺に向かってグリーン大通り(なり)、美鷹刑務所はサンシャインシティへと変わっています。また、雑司が谷を流れていた築糸川は暗渠化となっています。江戸のころには木田蜀山人(おわたしばさむらひ)ら文人に愛された緑の土地でした。

### 現在の雑司が谷が、 歴史の深い懐に抱かれた そぞろ歩きに「発見」が

江戸時代を偲ばせる鬼子母神参道の碑と木、法明寺の桜。郷土玩具「すきみすく」も今に伝えられ、霊園の東面には「日置教師館」「みみすく資料館」もあり歴史の濃の深さが今も残っています。芭蕉の高弟である雪中庵風雪(はっしやうはんふう)や、新劇運動の秋田雨産(あきたあまのりく)などの眠る周辺に寺に訪れる人も多く、そぞろ歩きに発見がある町です。近くには、新しく開館した中央図書館もあり、散策ゆりに歴史書などをひも解いてみてはいかがでしょうか。



# 雑司が谷霊園MAP



発行：豊島区文化観光課  
東京都豊島区東池袋1-18-1  
TEL: 03-3981-1316 FAX: 03-3981-3069  
E-mail: A0014503@city.toshima.lg.jp  
元区史編集委員  
伊藤泰洪(豊島区図書館専門研究員) 元区史編集委員  
イナズト：矢口由美子(デザイン室あとりえ)  
2010年3月発行(第2版)  
豊島区観光案内ホームページ  
http://www.city.toshima.lg.jp/bunka\_kankou/

### 雑司ヶ谷霊園

御料地として、3代将軍家光の寛永15年(1638)に葉草栽培の御菜園となり、8代将軍吉宗の享保4年(1719)には御鷹部屋に変わり、将軍の鷹狩りに使う鷹の飼育場所として使われていたところ。明治7年(1874)9月1日に東京府によって共同埋葬地となりました。現在の地番は南池袋四丁目25番。広さは約10万㎡です。



### 豊島区 観光案内

雑司が谷日置教師館